

病院概史

(その2)

16, 7世紀のルネッサンスの時代に入ると、他の学問と同様、医学は新しい発展を初めた。ギリシアの実証的医学及エジプト、インド、アラビアの知識が顧られるようになり、解剖学、生理学その他の基礎的医学が前進を始め、亦臨床医学が科学的な形態をとり初めるようになった。そして総ての病院が医師の実習場となった。特にこの時代に外科というものが病院内で発達することになった。

1506年には学校出身の外科医はエジンバラの王立外科医学校 The Royal College of Surgeons of Edimburgh を作り、又1528年にはイングランド王立内科医学校 The Royal College of Physicians of England が英国の内科医によって作られた。そして病院附属の医学校が発展し、且つ病院に於ける治療の信頼度が民衆の間に高まるようになって行つた。然しルネッサンスの結果から生来した、ヘンリー八世の宗教改革は当時既に多数存在したカソリック教病院が、その弾圧の為に危機に瀕し、病人はちまたにあふれるようになった。その結果民衆は既にこれらの病院を最も信頼した医療機関として利用していた為に、その苦境を国王に歎願した結果、国王も遂に病院の意義を理解し、聖パーソロミューズ病院の復興が許され(1544年)、あまつさえ国王の侍医であつた名医 Thomas Vicary がその医監に命ぜられ、民衆の治療に当ることにさえた。このことは、医学が民衆に解放され、医療機関としての病院が、宗教を超越してその意義が認められたことである。然し歴史的なロンドンの聖ターマス及びベトレヘムの聖メリーの病院はその破壊をまぬかれたが、イングランドの他の地方の病院は閉鎖されてしまつた。1710年迄は実際に23の主要地方に一般病院がないことになつてしまつた。

然しこれらの病院にあつた医学校は存続しイタリー、フランスと共に実習教育が発達した。1667

年には聖パーソロミューズ医学図書館が創立した。一方オランダのレーウエンフ

ークの顕微鏡の発明は組織学、細菌学、病理学の出発を可能にした。スセント・ビンセント・ド・ポールでの慈善娘 Daughters of Charity の看護奉仕(1634)、オテル・デュ・ド・バリーでの尼さんに教育された娘の看護というような、専門的な現代の看護婦の濫觴がこの当時に始まつている。

18世紀に入ると、貧者救済の慈善病院が出現する様になつて来た。有名なブリストルの聖ピーター病院は1732年に出来た。王立内科医学校は無料診察と実費投薬を貧者の為に始めたのはこの世紀の始めである。これと同じ方法が、ウェストミンスター病院で1719年に始められた。続いて地方ではブリッスルの王立施療病院が最初に設立された。この時代に現われた有料、無料兩方を兼ねる大病院としては、博愛家のガイ氏による病院 Guy's Hospital (1724)、セントジョージ病院(1733年)、ミッドルセックス病院(1745)、マンチエスター病院(1753年)、ダブリンのジャービス街病院(1728年)、ライングイン病院 Living-In Hospital (1745年)等があり、かの大ロンドン病院が初まつた1740年当時の幹部は、一人の内科医と、一人の外科医と一人の薬剤士であり、それに加うるに、一人の昼の看護婦と一人の監視 watch 或は夜の看護婦 night nurse だけであつた。

その外18世紀に創立された有名な病院はベルリンの慈善病院(1710年)、ウィーンの綜合病院(1795年)、バリーのサン・アントアン病院などがある。

当時の病院の設備は未だ未だ不完全で、不潔で粗雑で病人の世話は不充分極まるものだつた。そしてエリザベス時代の物質主義的な冷淡な風気が病院サービスの欠陥を助けていた。そして19世紀の中頃まで、病院の進歩に関する限りこの物質主義の為に病院の姿は民衆の要求に遠いものであつた。(Y・Y生)